

日本 NPO 学会第 13 期理事会 第 8 回理事会（メール理事会）議事録

I. 開催概要

- ・ 日時（審議期間）：2025 年 9 月 3 日（水）～9 月 9 日（火）24 時
- ・ 開催方法：第 13 期理事会メーリングリスト（rijikai13@janpora.org）での審議
- ・ 審議方法：電子メール（回答フォーム）を用いて審議結果を回答
- ・ 回答有：石田会長、松本副会長、稲葉理事、内田理事、大西理事、菊池理事、岸本理事、小嶋理事、小田切理事、佐藤理事、菅野理事、瀬上理事、田辺理事、筒井理事、永井理事、中嶋理事、新川理事、西出理事、長谷川理事、八木橋理事、吉岡理事、李理事、脇坂理事
- ・ 会則施行細則に基づき決議を省略した事項の提案をした者：会長 石田祐
- ・ 理事会の決議日：理事会終結後、確認を経て 9 月 10 日（水）に確定
- ・ 議事録の作成者：会長 石田祐、事務局長 佐藤勝典

II. 理事会成立と議決方法

審議期間終了日において、理事の過半数となる 23 名から審議結果に関する回答が寄せられ、その回答数の過半数をもって議を決した（会則第 26 条、第 27 条、及び会則施行細則第 6 条参照）。なお、理事の過半数は 13 名以上である。

III. 議案：審議事項

- (1) 第 1 号議案：入会希望者の承認について

入会希望者について審議を行った（第 1 号議案資料）。

- (2) 第 2 号議案：第 28 回研究大会実施について

第 28 回研究大会の日程及び開催校について審議を行った（第 2 号議案資料）。

- (3) 第 3 号議案：第 28 回研究大会実行委員会の設置と委員の選任について

第 28 回研究大会の実施に向けた実行委員会の設置と委員選任について審議を行った（第 3 号議案資料）。

- (4) 第 4 号議案：第 28 回研究大会企画委員会の設置と委員の選任について

第 28 回研究大会の実施に向けた企画委員会の設置と委員選任について審議を行った（第 4 号議案資料）。

IV. 報告事項

- (1) 報告 1：執行部報告について

執行部における諸活動が報告された（報告 1 資料）。

(2) 報告 2：第 27 回研究大会優秀発表賞の選考結果について

学会賞選考委員会より、第 27 回研究大会優秀発表賞の選考結果が報告された（報告 2 資料）。

(3) 報告 3：学術研究委員会報告

学術研究委員会より、若手研究者への国際学会参加支援助成金の募集及び開催したセミナー等について報告があった（報告 3 資料）

(4) 報告 4：退会者について

第 6 回理事会から 2025 年 8 月 22 日までの間の退会者について報告された（報告 4 資料）。

IV. 審議結果

(1) 決議

- ・第 1 号議案：有効回答数 23 であった。また、回答数の過半数となる 23 人が原案を承認した。よって議案は原案通り承認された。
- ・第 2 号議案：有効回答数 23 であった。また、回答数の過半数となる 23 人が原案を承認した。よって議案は原案通り承認された。
- ・第 3 号議案：有効回答数 23 であった。また、回答数の過半数となる 23 人が原案を承認した。第 3 号議案資料の誤記を修正のうえ、議案は承認された。
- ・第 4 号議案：有効回答数 23 であった。また、回答数の過半数となる 23 人が原案を承認した。よって議案は原案通り承認された。
- ・第 5 号議案：有効回答数 23 であった。また、回答数の過半数となる 23 人が原案を承認した。よって議案は原案通り承認された。

(2) 付帯意見

◎第 3 号議案 1 実行委員会設置 業務内容 ①開催校（関西学院大学）～～とありますが、（東海大学熊本キャンパス）の記載間違いではないかと思います。※同意見ほか 1 名

◎ご準備に大変お手数をおかけしました。よろしくお願いします。

◎ご尽力ありがとうございます。

◎学会開催を受けてくださった山田先生、東海大学熊本キャンパスの皆さまに感謝申し上げます。運営委員の皆さまはじめ、執行部、事務局、理事などによるサポート体制をしっかり作っていく必要があるように感じました。

◎前回そして今回の退会者リストを拝見し、こと実力ある実践者の方々の退会を私は憂慮してございます。彼女ら彼らはまず一年間入会して、その間で本会が自分に価値があるか見極めて、もし不足と判断すると退会するように拝察します。年に一度の研究大会だけでは不足と解され、とはいえ実践者として学術論文の書き方の研修がなければ、ノンプロフィットレビューへの寄稿もできないため、本会参加を続ける理由が見つからないというご判断に至っている可能性を、私自身も実践者のため、拝察します次第でございます。

「理事という責任を私も果たさねば」という思いから、以下3つのご提案がございます。

1. 新入会員ガイダンスや、いわば四半期会のような定例の交流会や勉強会を、オンラインであれ定例開催し、学びができ、知人友人ができるので、本会を続けたいという文脈を生み出す（以前、独立研究者の交流会の提案を申し上げておりますが、より準備が簡素で、リラックスして参加できる案です）。
2. ご案内の通り、医学の学会の場合は、その学会の研修修了証が診療所内に掲示され、地域での信頼づくりに活用されています。本学会でも修了証の発行を伴う研修（例：NPO の人材育成）を開発し、その修了証がある会員が、たとえば中間支援組織の相談窓口で掲示し、地域での信頼向上になるような文脈を生み出す。
3. 以前私は「一般財団法人 NPO 学会」という法人化の提案を理事会にて申ししておりますが、NPO 業界の無形資産形成に本会が貢献する展開が必要と拝察します。実はつい先日、都内である有力 NPO の理事長なのに彼は賃貸アパートの入居審査が通らなかったという悲痛な SNS 投稿を拝見しました。毎年、フローである助成金や寄付金集めに奔走するばかりで、ストックの形成が追いつかずに低賃金が長年続いてしまい、結果痛ましい事態へ。もちろん私も自身が在籍します財団にて NPO 業界の無形資産形成への貢献に尽力しますが、NPO 業界で最も知見を蓄積する本会が貢献できることは多々あるように拝察します。法人化して本会自体がより一般社会から信頼を向上してたとえば金融機関の口座開設で困らないようにすること（一例にすぎません）や、訴求力を上げること、本会の資金調達力を向上して研修講座の開発や提供、研究助成を旺盛に行うなど、日本の市民社会の底上げに研究面から大きな役割を担えるように拝察してございます。

以上